舞鶴市近代化遺産保存センターNEWS

第6号
令和8年10月号
（毎月15日発行）

この建物、見たことある？

旧北吸浄水場の配水池

今月の『近代化遺産保存センターNEWS』は、かつて市民プール（平成18年廃止）として多くの人で賑わった小高い丘に今も残る**旧北吸浄水場の配水池**を紹介します。「バスを降りて、坂をのぼってやっとプールにたどり着いた」と思い出深い人もおられるのではないでしょうか。



配水池の外観

艦艇に供給する真水

旧北吸浄水場は、海軍の艦艇と軍港の各施設に大量の真水を供給するために、明治34（1901）年の舞鶴鎮守府開庁に合わせて建設されました。浄水場には3つのろ過池が設けられ、ろ過されたきれいな水が配水池に貯蔵される仕組みでした。この配水池が今も旧市民プール施設の横に現存しています。

北吸浄水場の水源は、与保呂川の上流に作られた桂貯水池（明治33年竣工）です。与保呂の水源地から北吸まで8キロの距離を高低差のみで送水していました。

迷路のような地下空間

目を惹くトタン葺きの三角屋根は、大正15年に建てられた配水池を覆う上屋（うわや）です。上屋の正面中央入口には、上部にアーチを施した洒落たデザインが見られます。

配水池の内部には深さは5・6メートルの貯水槽があります。水が淀まずに流れるよう、貯水槽にはれんが造の導水壁が5列並び、まるで迷路のような地下空間になっています。

水源地の貯水池（築堤）や浄水場など、明治期の近代水道の遺産が多く残っていることが評価され、「舞鶴旧鎮守府水道施設」として国の重要文化財に指定されています。

浄水場がプールに変身？

終戦後、北吸浄水場は市の水道施設として利用され、昭和39（1964）年に廃止されました。その後、昭和41年に市民プールがオープンしました。プールは3つありましたが、元々あった3つのろ過池を利用してプールに転用されたことはあまり知られていない歴史です。



配水池の内部（非公開）

見に行くなら？

舞鶴市字北吸509

いつでも外観をご覧いただけます。内部は通常見学不可ですが、舞鶴観光協会（0773-77-5400）の非公開ツアーあり。



近代化遺産とは

幕末から第二次世界大戦期までに、当時の最新技術でつくられた、日本の近代化に貢献した建物やインフラなどの遺産です。近代化遺産保存センターでは、私たちのまち舞鶴の礎を築いたこれらの近代化遺産を大切に次世代に継承していきたいと考えています。

舞鶴赤れんがパークには明治時代から大正時代に旧海軍が建てたれんが造りの倉庫8棟が残り、国の重要文化財に指定されています。舞鶴市では令和7年度から貴重な近代化遺産を将来に受け継いでいくため、6号棟の保存修理工事に着手しました。

重要文化財を未来に引き継ぐ

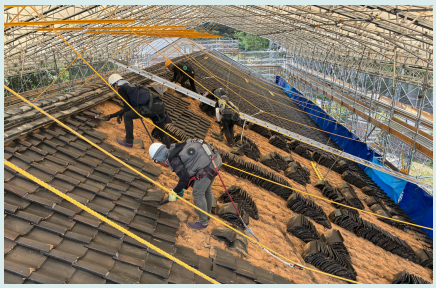
赤れんが６号棟 保存修理工事のこと

大掛かりな「屋根」が作られましたね。
何が始まるんですか？？

屋根の工事が始まります！

修理中に雨水が入って部材が傷まないように仮設の「素屋根」を作りました。これから瓦を取り外して、本格的な修理に取り掛かります。







屋根修理はじまる

瓦を１枚１枚、丁寧に取り外すと、所々で雨漏りで野地板に大きな穴が空いていました。
取り外した瓦は洗浄し、状態を点検して破損のないものはもう一度葺き直します。
文化財の修理では傷んでいない部材は極力再利用して、文化財の価値を保つ工夫を行います。





瓦の枚数は
なんと１万３千枚！

１枚１枚全て点検して洗浄します

今月の『近代化遺産センターNEWS』はいかがでしたか？
QRコードから、あなたの「知りたい」「見たい」をお聞かせください。
舞鶴市近代化遺産保存センター　TEL：0773-68-9236　kindaikaisan@city.maizuru.lg.jp

イベント告知　巡回パネル展、開催中！

舞鶴の
近代化遺産ずかん
赤れんが倉庫だけじゃないので、ちょっと覗いてみませんか。

舞鶴市内の近代化遺産を豊富な写真で紹介するパネル展を下記５会場で順次開催します。

巡回会場一覧

西駅交流センター	**10.7(水) - 28(水)**
西図書館	11.5(木) - 15(日)
東図書館	11.18(水) - 12.2(水)
郷土資料館	12.4(金) - 20(日)
まなびあむ	終了